



文理横断・文理融合教育を通じた学修成果の可視化と学生の成長

九州大学共創学部における学生の学びと進路状況

2023年11月28日（金）

九州大学 副学長 共創学部長 鎬木 政彦

本日本話しする内容

1. 九州大学・共創学部概要

2. 共創学部の文理融合教育の特徴

～入試、カリキュラム、特徴的な授業科目～

3. 志願状況、教育の成果と課題

～学修成果の可視化の観点も加えて～

1. 九州大学・共創学部概要

九州大学概要

- 創立 1911年
- 学生数 18,658 (令和5年5月1日現在) *国立大学 4 位
- 教職員数 7950 (令和5年5月1日現在) *教員数(2370)は国立大学5位
- 学部 12 (共創・文・教育・法・経済・理・医・歯・薬・工・芸工・農)
- 学府 (大学院) 19
(人文科学府、地球社会統合科学府、人間環境学府、法学府、法務学府 (ロースクール)、経済学府、理学府、数理学府、システム生命科学府、医学系学府、歯学府、薬学府、工学府、芸術工学府、システム情報科学府、総合理工学府、生物資源環境科学府、統合新領域学府、マス・フォア・イノベーション関係学府)
- キャンパス 5 (伊都、馬出、筑紫、大橋、別府)

九州大学・伊都キャンパス



九州大学



共創学部概要

- 学生定員 105 (九大全体の学部定員 2549 の 4.1%)
 - 専任教員 52
 - 科目担当教員 31

 - 入試方法 (募集人員数)
 - 1) 総合型選抜 (20) (大学入試共通テストを課さない)
 - 2) 学校推薦型選抜 (10) (大学入試共通テスト英数国を課す)
 - 3) 一般選抜 (65) (英語[全学共通]、文系数学[全学共通]、小論文[学部独自])
 - 4) 国際型入試 (10)
 - 帰国生徒、4月入学私費留学生 (日本語)
 - 10月入学私費留学生 (英語)
- ※文系コース、理系コースに分けない入試

共創学部 の 設置 経緯



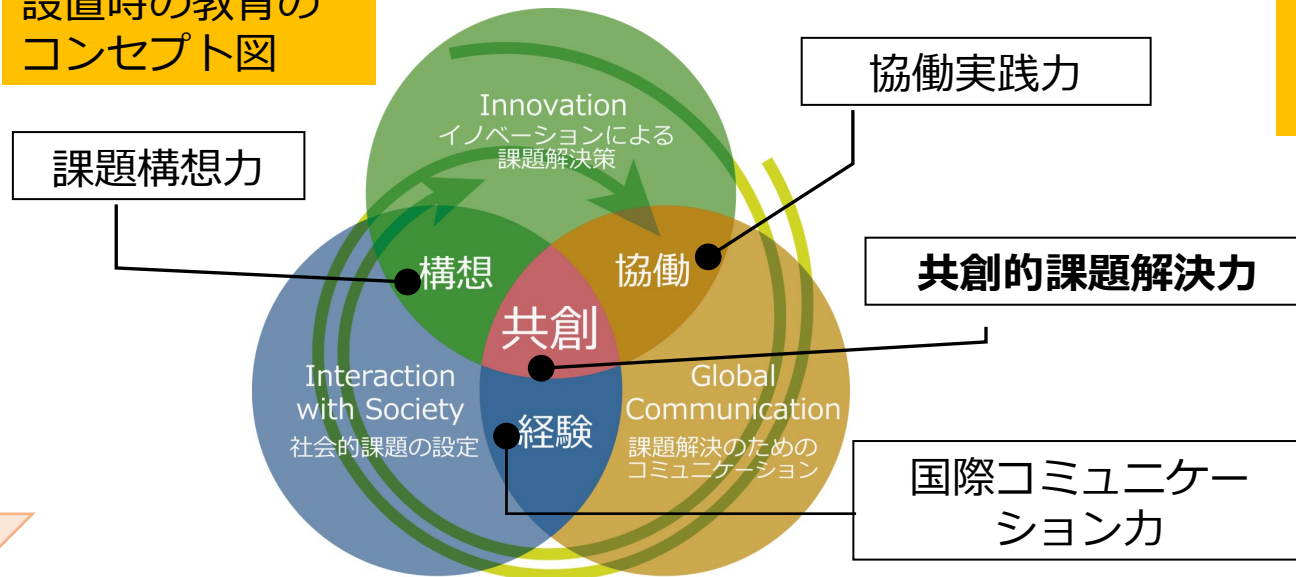
2009 (H21) 年 7月 「国際化拠点整備事業 (グローバル30)」 に採択

事業計画の中で、事業成果を基に、2020年度 (H32年度) までに、全学部横断的に英語で教育を行い留学生と日本人学生が共に高度な教養を学ぶ「国際教養学部」の創設構想を提唱

2014 (H26) 年 9月 「スーパーグローバル大学創成支援事業 (SGU)」 に採択

-戦略的改革で未来へ進化するトップグローバル研究・教育拠点創成 (SHARE-Q) -
構想調書の中で、2017 (H29) 年度より新学部「国際教養学部 (仮称)」を開設することを明記

設置時の教育の コンセプト図



カリキュラム改革後 (2023年度以降)の コンセプト図



2018 (H30) 年 4月 地球的課題に世界と協働して取り組む人材の養成を目指して、**新学部「共創学部」開設**

共創学部 運営体制



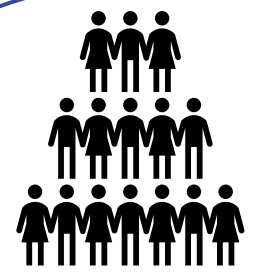
総長裁定「共創学部の教員組織の編制について」（平成30年2月20日制定/令和4年1月27日最終改正）
 （基本方針）第2条 共創学部の教員組織は、学問分野の枠を超えて知見を統合し、高いコミュニケーション力により他者と協働し、課題解決を構想するという学部の理念を実現するために、**全学的な協力体制の下で編成するものとする。**

分野の枠を超えて学内の様々な部局から教員が参画

参画教員が退職や転出する場合、選出部局は後任を補充する


共創学部長
 （副学長又は副理事から総長が指名）


副学部長(2名)
 （共創学部長が指名）



学府研究院制度による参画（当初21部局、現在23部局）

| | | | | |
|--------------|-----------------------|-------------------|----------|-------------|
| 基幹教育院 | 人文科学研究院 | 比較社会文化研究院 | 人間環境学研究院 | |
| 法学研究院 | 経済学研究院 | 言語文化研究院 | 理学研究院 | 医学研究院 |
| 薬学研究院 | 芸術工学研究院 | 農学研究院 | 工学研究院 | システム情報科学研究院 |
| 総合理工学研究院 | 応用力学研究所 | マス・フォア・インダストリー研究所 | | |
| 熱帯農学研究センター | 留学生センター | 韓国研究センター | | |
| 学術研究・産学官連携本部 | 科学技術イノベーション政策教育研究センター | | | |
| エネルギー研究教育機構 | | | | |

共創学部専属教員3名

- 運営会議
- 国際推進室
- 将来計画委員会
- 教務・学生委員会
- 入試委員会
- 査定委員会
- 研究倫理専門委員会
- 広報委員会
- 評価委員会
- など

専任教員数 52名
科目担当教員数 31名
 (R5.5.1現在)

専任教員52名のうち
25%(13名)が外国人



- ✓ 教授会を日英二言語で運営
- ✓ メール通知や委員会等の各種資料も二言語化で対応（DeepL等を積極的に活用）

2. 共創学部の文理融合教育の特徴

～入試、カリキュラム、特徴的な授業科目～

4つの入試と学生の多様性



一般選抜 (募集人員65名)

- ✓ 大学入学共通テスト
-英語みなし得点有 (外部試験)
-「地歴公民」, 「理科」は4パターンから選択可
- ✓ 「志望理由書」が必要
- ✓ 個別学力検査 (前期)
-前期日程では他学部にな
い「小論文」あり

R5(2023)年度入試
志願者数191/合格者69
倍率 2.77

総合型選抜 (募集人員20名)

- ✓ 1次選抜
-推薦書、調査書、志望理由書、活動歴報告書を総合的に評価
- ✓ 2次選抜
-2つの講義受講・レポート作成
(講義約50分+レポート約90分×2回)
-グループ討論 (12名程度約3時間)
-個別面接 (1人約15分)
-小論文(約4時間)

R5(2023)年度入試
志願者数121/合格者20
倍率 6.05

学校推薦型選抜 (募集人員10名)

- ✓ 1次選抜
-推薦書、調査書、志望理由書、活動歴報告書を総合的に評価
- ✓ 大学入学共通テスト
-「国語」「数学」「英語」の合計点
-英語みなし得点有 (外部試験)
- ✓ 2次選抜
-プレゼンテーション (5分) と面接 (20分)

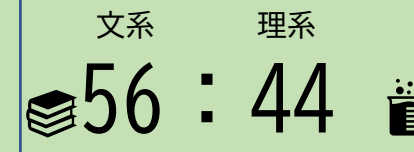
R5(2023)年度入試
志願者数60/合格者10
倍率 5.45

国際型入試 (募集人員10名)

- ✓ 帰国生徒選抜
-出願書類、筆記試験(英語・数学)、面接
- ✓ 私費外国人留学生入試 (4月入学)
-出願書類、日本語筆記試験、面接
- ✓ 私費外国人留学生入試 (10月入学)
-出願書類、面接 (オンライン)

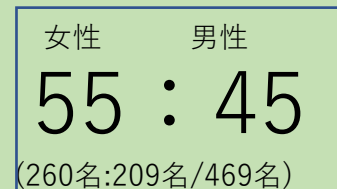
R5(2023)年度入試
志願者数36/合格者16
倍率 2.25

入学者の傾向① 高校時代の文理比



*R5.4.1入学者(一般・総合・推薦合格者96名)

入学者の傾向② 在学生の男女比



全体(全学部)
女性 男性
30 : 70
(3,479名:8,228名/11,707名)

カリキュラムの特色

本学が全ての学生に求める「**能動的学習能力**」を礎にして、「共創」のために必要な態度・能力となる「**創造的構想力**」、「**国際コミュニケーション力**」、「**課題検討力**」、「**協働実践力**」を養成し、これらの修得を通して「**共創的課題解決力**」の獲得を目指す。

1. 徹底した語学教育

高い英語運用能力（「読む・書く・聞く・話す」の4技能）を身につけるため、1年次に「英語インテンシブコース」を集中的に履修。 共創学部の学生(1年次)前期：週3日×2コマ連続(6コマ) ⇒ 後期：週2日×2コマ連続(4コマ)

2. 実践的な協働学習

チーム型学習（Team-Based Learning）による「共創基礎プロジェクト」(2)、「共創プロジェクト」(1)を2～3年次に必須化。（計8単位）他者と協働して課題の解決を行う際の手法や技法、知識の活かし方、他者との意識の組み合わせ方や合意形成など、実際のプロセスを通して身に着ける。

3. 文理融合の課題解決型のカリキュラム

複数の学問分野の知識や技能を組み合わせることで問題の解決方法を考えていくため、人文社会、社会科学、自然科学という既存の学問分野を横断・融合する内容の様々な授業を提供。最終的には、3年次の冬学期から「ディグリープロジェクト」として学生一人一人が設定した課題に取り組む。

4. 海外大学への留学等の必須化

すべての学生が異なる文化の中で学び、活動する経験を積むことで、国際理解や知識の拡大、言語能力とコミュニケーションの向上を図る。

5. 留学生とのクラスシェア

日本人学生と外国人学生が共に学ぶ授業スタイルを積極的に取り入れ、双方の交流の促進される環境を作る。



6. レクチャーシリーズ

国内外から研究者だけではなく、現場の実務に携わってきた実務家や行政官、クリエイターなどを講師として招き、その経験をお話しいただくことで、学生の視野を広げる。

共創学部 教員の専門性



人文社会系：哲学、科学史、日本・東アジア近代史、日本・東アジアの思想史、歴史学、地理学、考古学、人骨考古学、文化人類学、ヒマラヤ地域研究、応用言語学、言語学、Sociolinguistics、日本語教育学、第二言語習得論、国際ソーシャルワーク、サービス・デザイン、政治理論、政治思想史、比較地域研究、国際関係論、国際政治学、中東政治、開発経済学、応用経済学

数理工系：偏微分方程式、最適化理論、複雑系科学、熱機関工学、物性物理学、初期宇宙論、素粒子物理学、地盤工学、Geothermal Energy、岩石学、地質学、地球化学

生物系：昆虫学、農学、Molecular Biology、発生生物学、生態毒性学、

総合系：情報学、行動情報処理、認知神経科学、脳情報科学、医学教育学、自然地理学、環境経済学

学府研究院制度による参画（当初21部局、現在23部局）

共創学部専属教員（部局外）

基幹教育院

人文科学研究院

比較社会文化研究院

人間環境学研究院

法学研究院

経済学研究院

言語文化研究院

理学研究院

医学研究院

薬学研究院

芸術工学研究院

農学研究院

工学研究院

システム情報科学研究院

総合理工学研究院

応用力学研究所

マス・フォア・インダストリー研究所

熱帯農学研究センター

留学生センター

韓国研究センター

エネルギー研究教育機構

科学技術イノベーション政策教育研究センター

学術研究・産学官連携本部

専任教員数 52名
科目担当教員数 31名
(R5.5.1現在)

専任教員52名のうち
25%(13名)が外国人

設置時のカリキュラム (2018~2022年度入学生)



カリキュラム

課題に応じ自ら必要なことを学ぶという態度・志向性を身につけるために、学生自らがカリキュラムをデザインし、履修するアクティブ・ラーニング(能動的な学習)をもとにした教育を行います。全学共通である学びの「幹」をつくる基幹教育科目と、それを基盤とした専攻教育科目からなる教育課程です。また、徹底した語学教育によって、実践的に活用できる言語能力の獲得も目指します。

※下記のカリキュラムは2022年度のカリキュラムです。2023年度から一部変更する可能性があります。

●:基幹教育科目, ●:人間・生命エリア科目, ●:人と社会エリア科目, ●:国家と地域エリア科目, ●:地球・環境エリア科目, ●:エリア横断科目, ○:その他科目

学びのエリア

人間・生命エリア

生命の発生・進化や、人間の思考・認知・判断の仕組みなどを、生物学、認知科学、脳科学等を通じて学びます。

人と社会エリア

意思疎通における言語の仕組みや、先史社会、多文化共生、社会における生活実践としての福祉、宗教観などを、社会学、文化人類学、コミュニケーション学等を通じて学びます。

国家と地域エリア

国家や地域の歴史、特徴的な経済・社会現象、政治と経済の関係性などを、政治学、経済学、史学等を通じて学びます。

地球・環境エリア

地球がもつ資源や、地球環境の変化による災害、生命が環境に与える影響などを、地球惑星科学、社会・安全システム科学、生物学等を通じて学びます。

エリア横断

4つのエリアによる学びの共通の基礎となり、さらには構想を発展させる役割を担う横断的な科目、例えば「デザイン思考」、「データサイエンス」、「グローバル・ヒストリー」等を履修することにより、課題・問題の解決に必要な知識・能力を身につけます。

1年次

2年次

3年次

4年次

幅広い学問分野や技能と、学問を課題解決に活かすアクティブな態度と思考法を獲得

課題解決の方法等を、複数の学問分野の知識や技能を組み合わせて構想

基幹教育

九州大学で学ぶ全ての学部学生が履修します。「ものの見方・考え方・学び方」を学び、深い専門性や豊かな教養へとつながる知識、技能を身につけます。共創学部では言語文化科目に「英語インテンシブコース」を設け、英語の運用能力の向上に重点を置く徹底した英語教育を行います。

- 基幹教育セミナー
- 理系デザイン科目
- 課題協同学科目
- サイバーセキュリティ科目
- 言語文化科目
- 健康・スポーツ科目
- 文系デザイン科目
- 総合科目

共通基礎科目

- 共創デザイン思考発想法
- フィールド調査法
- 科学論
- データサイエンス基礎
- 複雑系科学入門
- グローバル・ヒストリー
- グローバル・エシクス

構想科目 エリア横断科目

- デザイン思考プログラミング演習
- デザイン思考プロセス演習
- デザイン思考エンジニアリング演習
- ビッグデータ処理
- 実データ解析技法
- データアナリティクス
- 物理学の歴史と哲学
- 地球と生物学の歴史と哲学
- 科学技術社会論
- 複雑系科学論
- Thermo-Dynamical Properties
- 量子現象科学論
- Python Programming for Analysis

協働科目

- 共創基礎プロジェクト1
- 共創プロジェクト1
- 共創基礎プロジェクト2
- 共創プロジェクト2

構想科目 エリア基礎科目

- 遺伝学と進化
- Molecular & Cell Biology
- Brain & Information
- 社会哲学論
- 言語コミュニケーション論
- 社会共生論
- 地域研究基礎論
- 政治・経済基礎論
- 歴史基礎論
- 地球の理解
- 自然環境と社会
- 自然災害・資源
- 地球環境実習

共創科目 エリア発展科目

- 進化生物学
- 発生生物学
- Physiology and Behavior
- Stress and Nutrition
- Biochemistry
- Advanced Molecular Biology
- 病態生理
- 健康の科学
- Cognitive Science
- Bioethics
- 生命情報科学
- システム神経科学
- 多文化共生の世界秩序
- 教育倫理学
- 人間社会研究法
- 言語とコミュニケーションA
- 言語とコミュニケーションB
- 議論と創造のコミュニケーションA
- 議論と創造のコミュニケーションB
- 英文化とコミュニケーション
- メディアとコミュニケーション
- 先史社会を知るA
- 先史社会を知るB
- 国際福祉論
- 生き方の人類学
- 国際政治学
- グローバル芸術論
- 比較地域研究
- 東アジア地域研究
- 地域生態論
- 開発経済学
- 国際関係論
- 国家と政治
- 日本経済史
- 埋蔵文化財から見える世界
- 地域史
- 比較史
- 地球物質科学
- 大気海洋科学
- 地球の運動
- 社会の中の地球科学
- 地盤学と災害
- 生物多様性科学
- 保全遺伝学
- 環境保全・再生
- 環境地理学
- 環境地理学
- 環境都市政策
- 東アジアの経済地理学
- 環境ガバナンス
- 環境・エネルギー学

○レクチャーシリーズ

経験科目

- 異文化対応1
- 異文化対応2
- 海外活動A1
- 海外活動A2
- 海外活動B1
- 海外活動B2

必要に応じて他学部などの科目を履修

専攻教育

共創科目 ディグリープロジェクト (卒業研究)

- ディグリープロジェクト1
- ディグリープロジェクト2
- ディグリープロジェクト3

1年次

2年次

3年次

4年次

視野を広げ、課題に取り組む土台をつくる: 課題の分析・検討に必要な様々な学知と技能を学び、協働や経験を通じてものの考え方や視野を広げる

課題に取り組む上で必要となる能力を磨く: 実際に課題の分析・検討をおこなうことを通じて、将来的な課題の解決に必要な学知や技能、視点、態度を修得する

高年次基幹教育科目

協働科目

知識や技能、考え方、背景の異なる様々な人々と協働して、課題を検討、将来的な解決への道筋を考える思考法や態度、スキルを身に付けます。
・共創基礎プロジェクト ・共創プロジェクト

共創基礎演習

アプローチ科目で学んだ学知や技能を、少人数での演習形式で深めることを目的とします。

共創発展演習

主指導教員から、ディグリープロジェクトの遂行に必要な方法論や技能、モノの見方などを、定期的に指導を受けることを通じて修得します。

アプローチ科目

我々が直面している課題を考えるうえで必要不可欠な学問的方法論や技能を身に付けます。

課題科目

アプローチ科目で学んだ学問的方法論や知識、技能などを活用して、実際の課題を考え、その将来的な解決に至る道筋を探ることを学びます。

基幹教育

九州大学で学ぶ、全ての学部学生が履修します。「もの見方・考え方・学び方」を学習し、深い専門性や豊かな教養へとつながる知識、技能の基礎を身に付けます。

- ・基幹教育セミナー
- ・課題協働科目
- ・言語文化科目
- ・文系ディシプリン科目
- ・理系ディシプリン科目
- ・サイバーセキュリティ科目
- ・健康・スポーツ科目
- ・総合科目

共創基礎科目

共創学部での学修の土台となるものの考え方や見方、研究方法、技術などを学びます。

- ・学術研究基礎
- ・課題とイノベーション
- ・共創のための数学
- ・システム科学基礎
- ・データの収集・分析
- ・世界の様々な哲学
- ・世界を理解するための歴史的視点

基幹教育科目: 英語インテンシブコース

英語の「読む・書く・聞く・話す」の4技能を徹底的に向上させ、英語が「使える」能力を身に付けます。

- ・インテンシブ英語 ・学術英語

人文・社会分野(系)

- ・思想・倫理・哲学A「文化的記憶入門」
- ・思想・倫理・哲学B「文化的記憶探求」
- ・思想・倫理・哲学C「社会哲学論」
- ・文学A「東アジアの文学と文化」
- ・文学B「多文化社会のための比較文学比較文化入門」
- ・言語・コミュニケーション論A「言語研究概論」
- ・言語・コミュニケーション論B「コミュニケーションの語用論」
- ・歴史学A「古代歴史基礎論」
- ・考古学A「公共考古学基礎論」
- ・考古学B「社会集団論」
- ・考古学C「先史社会研究の理論と方法」
- ・人類学A「人類学的インタビュー方法」
- ・人類学B「イスラム世界の多様性」
- ・政治学A「政治学基礎論」
- ・政治学B「規範的政治理論」
- ・国際関係論A「国際政治」
- ・国際関係論B「中国外交論」
- ・経済学A「経済分析入門」
- ・経済学B「インド・南アジアの経済発展と開発」
- ・経済学C「環境経済・政策論」
- ・経済学D「Critical thinking through behavioral economics」
- ・地域研究A「中東政治」
- ・地域研究B「文化人類学のフィールドワーク論」

自然科学分野(系)

- ・思想・倫理・哲学A「生命倫理科学」
- ・地域研究A「地球環境実証」
- ・数学A「統計入門」
- ・工学A「自然災害とレジリエンス1」
- ・工学B「自然災害とレジリエンス2」
- ・生物学A「遺伝学基礎論」
- ・生物学B「進化生物学」
- ・生物学C「分子生物学」
- ・生物学D「遺伝子実験と解析技術」
- ・生物学E「遺伝学と進化」
- ・生物学F「遺伝子とバイオダイバーシティ」
- ・生物学G「分子生物学と細胞生物学」
- ・生物学H「生化学、内分分泌学および栄養学」
- ・物理学A「解析力学入門」
- ・物理学B「自然科学の基礎」
- ・地球科学A「地球の環境形成」
- ・地球科学B「フィールドワーク基礎実習」
- ・地球科学C「地球物質の科学1」
- ・情報学A「論と情報」

学際分野(系)

- ・思想・倫理・哲学A「科学哲学」
- ・思想・倫理・哲学B「科学思想史」
- ・言語・コミュニケーション論A「学際研究入門」
- ・言語・コミュニケーション論B「フシリテーション入門」
- ・考古学A「考古学研究方法論1」
- ・考古学B「考古学研究方法論2」
- ・地理学A「東アジアの経済地理学」
- ・地理学B「自然環境地理学」
- ・地理学C「人文環境地理学」
- ・地理学D「環境地理学演習」
- ・地域研究A「地域研究基礎論」
- ・数学A「分類のための数論」
- ・数学B「図得のための数論」
- ・工学A「Energy Resources Engineering」
- ・情報学A「データアナリティクス1」
- ・情報学B「データアナリティクス2」
- ・情報学C「ビッグデータ処理」
- ・情報学D「実証研究法」
- ・情報学E「Python Programming in English」
- ・情報学F「Python Programming for Analysis」
- ・情報学G「実データ解析技法」
- ・科学技術論A「科学技術社会論」
- ・デザイン学A「福祉とコミュニケーションデザイン」
- ・デザイン学B「デザインとイノベーション」
- ・生態学A「生物多様性基礎論」

人間・生命領域

- ・システム神経科学
- ・栄養生理学
- ・バイオエンジニアリング: 社会との関係性
- ・健康の科学
- ・Basic Pharmaceutical Science
- ・Advanced Pharmaceutical Science
- ・遺伝学と発生生物学

国家と地域領域

- ・政策評価論
- ・ロシア経済論
- ・比較史
- ・歴史学
- ・国家と政治
- ・東アジアのジェンダー史
- ・現代中国論
- ・計量中東政治
- ・日本経済史
- ・地域生態論1
- ・地域生態論2
- ・物質文化研究3

領域横断

- ・コミュニティ・社会開発
- ・共創プログラミング
- ・地域史
- ・比較地域研究
- ・哲学から課題に取り組む
- ・規範的政治理論演習
- ・宗教研究

地球・環境領域

- ・生物多様性科学
- ・自然環境地理学応用演習
- ・保全遺伝学
- ・地球について考える
- ・社会の中の地球科学
- ・人文環境地理学応用演習1
- ・人文環境地理学応用演習2
- ・昆虫学演習
- ・環境都市政策

人と社会領域

- ・Best Energy Mix
- ・環境保全・再生
- ・定域環境学
- ・大気海洋科学
- ・環境・エネルギー
- ・地球の変動
- ・地球物質の科学2
- ・地球科学実習
- ・多文化共生と LOHAS
- ・物質文化研究1
- ・物質文化研究2
- ・物質文化研究3

- ・地盤防災とサステナビリティ
- ・デザイン思考による課題解決
- ・脳科学と社会問題
- ・デザイン思考プロセス演習
- ・デザイン思考エンジニアリング演習
- ・デザイン思考コミュニケーション演習
- ・環境ガバナンス
- ・現代自然科学

ディグリープロジェクト (卒業研究)

学生一人一人が将来的な解決を目指す課題を選定し、そのために必要となる方法論や技能を駆使して、課題の根源的な原因の探求や、将来の解決に不可欠な手法やモノの見方などの模索に取り組めます。

- ・ディグリープロジェクト1
- ・ディグリープロジェクト2
- ・ディグリープロジェクト3

経験科目

留学やインターンシップを通じて、自分が生まれ育った国や地域を超えて、世界中の様々な人々と交流し、自分とは異なる考え方や見方を学び、違いを超えて協力を身に着けます。
・異文化対応1 ・異文化対応2 ・海外活動A ・海外活動B ・グローバル・オンラインA ・グローバル・オンラインB

レクチャーシリーズ

実際の課題解決の現場ではどのような取り組みがおこなわれ、どのような困難に直面し、いかにしてその困難を克服しようとしているのかなどを学ぶことを目的に、産官学、様々な分野から講師を招き、講演やワークショップ形式で開講します。

必要に応じて他学部などの科目を履修

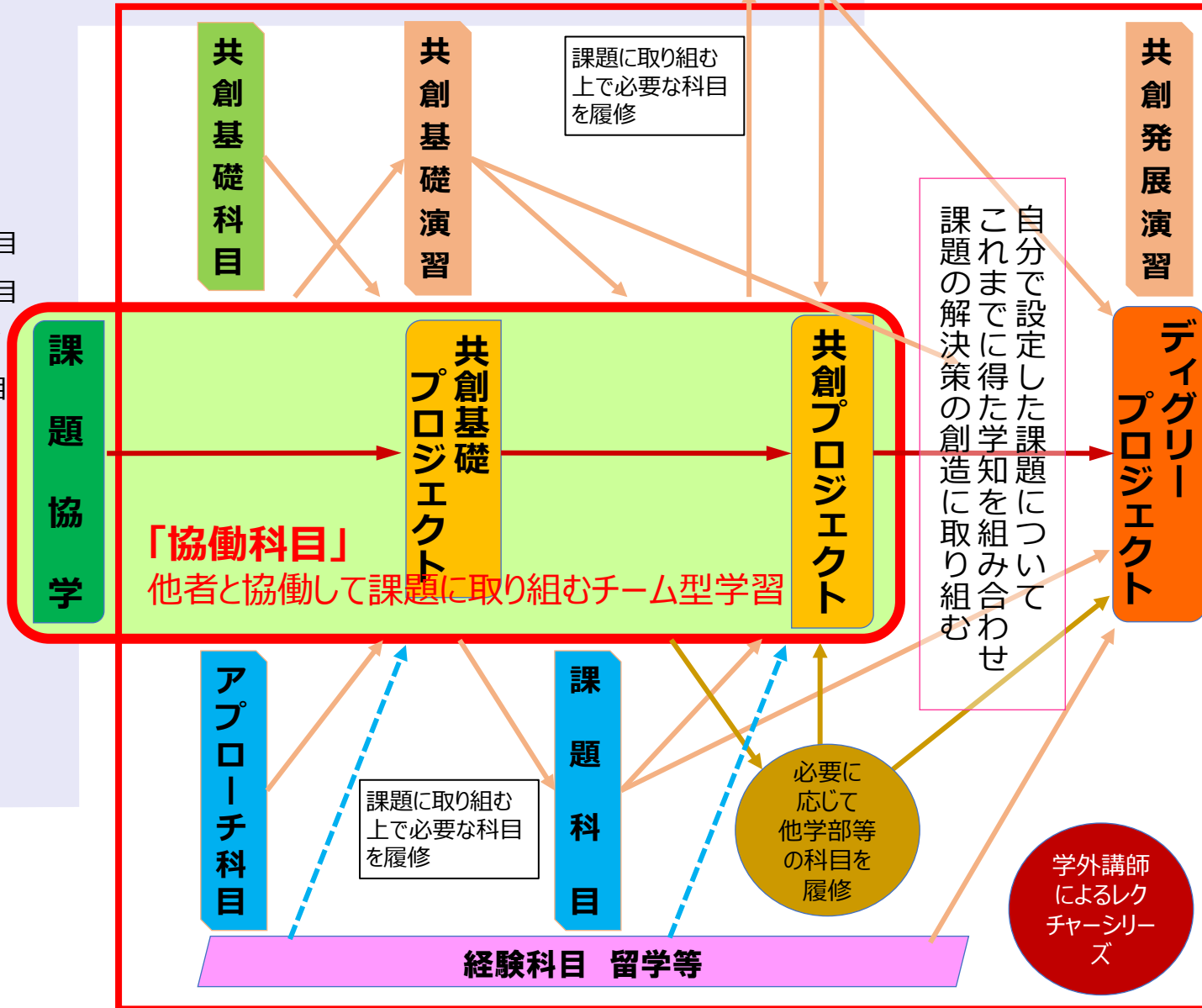
4年間の流れ

基幹教育

●高年次基幹教育科目

専攻教育

- 基幹教育セミナー
- 課題協学科目
- 言語文化科目
- 文系ディプロマ科目
- 理系ディプロマ科目
- サイバーセキュリティ
- 健康・スポーツ科目
- 総合科目



共創的課題解決力Ⅱ「共創」の専門性を獲得

※23年度入学者から新カリキュラム

※協働科目を中心とする中心ラインは変更なし

※文理融合の学びのための基礎として「共創基礎科目」

※課題に取り組む上で必要となる様々な学問の基礎「アプローチ科目」を文理融合で配置

※ディシプリンを課題解決に向けて学ぶ「課題科目」を文理融合で配置

※自分の関心あるテーマを深掘りする「共創基礎演習」「共創発展演習」

1年次

2年次

3年次

4年次

初年次：基幹教育・課題協学科目

基幹教育セミナー(1) 1年次夏学期に履修

課題協学科目 (2.5) 1年次後期(semester)に履修

言語文化科目
言語文化基礎科目 (英語・初修外国語)

文系ディシプリン科目

理系ディシプリン科目
(数学/物理学/化学/生物学/地球科学/感性・デザイン/情報科学/複合系/自然科学実験)

サイバーセキュリティー科目

健康・スポーツ科目

総合科目 (フロンティア科目・オープン科目)

高年次基幹教育科目

大学院基幹教育 (基幹科目・展開科目)

基幹教育

【課題協学科目】

1年次 後期開講 (2コマ×14週)

- 1クラス (150名) = 小クラス (50名) × 3クラス
- 専門分野の異なる3名の教員がチームを組んで担当「マギストレス」
- 学生は一つの教室テーマを選択し、学部・学科を混合して150名のクラスを構成 (文理融合)
- 教員の講義(20分弱) + 個人演習 + **グループ作業** (英語クラスあり)
- 「グループ作業」と「個人演習」により、**幅広い視野で問題を発見する姿勢、問題解決を目指して学び続ける態度と技能、専門を異にする他者と協働できる能力を養う**

【授業の構成】

| | 1週 (2コマ) | 2-5週 4週(2コマ×4) | 6-9週 4週(2コマ×4) | 10-13週 4週(2コマ×4) | 14週 (2コマ) |
|----------------|-------------------|-------------------|-------------------|---------------------|-----------------------------|
| 小クラス1 (50名) | ガイ ダ ン ス | 教員A | 教員C | 教員B | 全体 発表 会 総 括 |
| 小クラス2 (50名) | | 教員B | 教員A | 教員C | |
| 小クラス3 (50名) | | 教員C | 教員B | 教員A | |

教員3名が4週を3クラスで繰り返します

| 1週目 | 2週目 | 3週目 | 4週目 |
|--|--|---|--|
| 導入・課題説明 グループ作業 ・グループ分け ・グループ課題の設定 ・役割分担 ・調査や作業の検討 | グループ作業 ・発表内容の検討 ・発表資料の制作 ・発表材料の収集 | グループ作業 ・音声付き発表資料 (PPT)の制作 ・Moodleへ提出 | 全体グループ発表 ・他グループへのコメント ・教員のフィードバック ・最終資料提出 |

【取り組む課題の構成】

教室テーマ

協学課題1 (教員A)

協学課題2 (教員B)

協学課題3 (教員C)

《2022年度後期の例》(全19クラス)

教室テーマ

「数で表せるもの・表せないもの」

協学課題1

「健康はすべて数値化できるか？」
(農学教員)

協学課題2

「芸術を数で理解することは可能か？」
(人文教員)

協学課題3

「数とは何か？」 (基幹(数理)教員)

「共創基礎科目」

課題解決のための7つ道具。全員必修。（当初は「共通基礎科目」という名称で、「共創デザイン思考発想法」「データサイエンス基礎」「フィールド調査法」「科学論」「複雑系科学入門」「グローバル・ヒストリー」「グローバル・エシクス」を日本語と英語で開講。新カリキュラムで課題ベースの学び方にいっそう注力。）

| | |
|---|--|
| ①課題とイノベーション Issue and Innovation | (1)共創学部生が修得する「課題構想力」の基盤となる「社会的課題の設定」および「イノベーションによる課題解決策」の考え方の基礎を身につける。 (2)社会的課題の構造や動態を理解し、課題を多角的に捉えるための考え方の基礎を学ぶ。(3)課題からイノベーションに繋げるための考え方を理解する。 科目の概要：「環境問題」、「食糧問題」などの任意のテーマを題材に、毎回の共通主題に関して、最初に講義（教員からのインプット）をした後に、演習やグループワークを行い、最後に全体でまとめを行う。 |
| ②学術研究基礎 Basic Academic Research | 共創学部の卒業研究であるDegree Projectに取り組む基礎として、学術研究とは何かを理解し、課題型研究に必要な調査研究方法の基礎を身に付けることを目的とする。学術論文の読み方や書き方を基本に、人文科学、社会科学、自然科学などの分野でよく使われる調査研究手法を理解し、その利点や問題点、実施する際に留意すべき点、調査研究結果に基づいた解釈や結論を導く方法などについて、討論や文献レビューなどを通じて検討する。 |
| ③データの収集・分析 Data Collection and Analysis | データは、様々な視点から議論するための根拠を示すうえで、非常に重要である。特に近年は、情報通信技術(ICT)の発展により、多種多様な大量のデータを扱うことが可能となり、データの収集と分析の技法や実践は、益々重要となってきている。本科目では、データの収集と分析の基礎的な概念・手法を学び、コンピュータを用いた演習を通じてデータを効果的に利用するための実践的なスキルを習得する。 |
| ④共創のための数学 Math for ISI | 分野横断的な課題に取り組むうえで、データに基づいて戦略を立てるための手法が有効です。この授業では特に、データ分析に必要な基礎的な数学的素養を習得します。特に、微分方程式を用いたモデリングとそれを数値的に解く方法について学びます。 |
| ⑤システム科学基礎 Basic System Science | この授業では、世の中で起こる様々な複雑な現象を「システム」としてみるものの見方を学びます。システムを構成する要素がどのように相互作用し、全体を構成するか、データに基づいて分析し、予測する手法の基礎とそれに必要な基礎的な数学の素養を学びます。 |
| ⑥世界を理解するための歴史的視座 Historical Perspective of the World | 科目の目的:(1) 現代の課題を考えるうえで、歴史的視座が必要不可欠であることを理解してもらう、(2) 歴史から考える考え方の基礎を身につけてもらう、(3) 現在の世界が歴史的にどのように形作られてきたのかについて理解してもらう 現在、世界で生じている様々な課題を考える際に、歴史はいったいどのような意味を持つのか。本講義では主に19世紀以降に生じた、現代世界を形作る上で重要な意味を持つ、様々な出来事に焦点を当てながら、歴史から学ぶことの意義を理解し、それぞれが歴史的視座(Historical Perspective)を身につけるうえで不可欠な土台を提供することを目的とする。 |
| ⑦世界の様々な哲学 World Philosophies | グローバル化する世界においては、様々な倫理や信念が出会い、衝突し、困難な問題を引き起こしている。テロ、貧困、環境問題などのグローバル社会の諸課題にアプローチするためには、このような問題の背景にある、異なる倫理や宗教に注目する必要がある。本授業では、現代のグローバル倫理、そしてその西洋近代とキリスト教の由来について学習する。その後、その伝統を相対化するため、それと異なる世界観（イスラーム教、仏教、間柄の倫理）を探求する。最後に、現代のグローバル倫理の様々な課題について哲学的な考察をする。これを通して、世界の人びとを理解するために必要となる幅広い視野を身につける。また、倫理的思考のエッセンスを学び、グローバルな課題を考えるための哲学的思考力を養う。 |

協働科目：学修目標

【共創基礎プロジェクト】（2年次）

1. 準備・情報収集：課題解決に必要な情報を信頼性の高い情報源から収集するなどの準備を十分に整えたうえで学習活動に臨む。
2. 創造的・学際的探究：学際的見地から論理的、批判的かつ建設的に課題を分析し、解決への知的探究を行う。
3. 協働実践力：グループで行う学習活動において、グループが最大のパフォーマンスを発揮できるようメンバーに働きかけながら自律的に行動する。
4. 情報伝達力：適切な手段を用いて、情報やアイデアを他者に確実かつ分かり易く伝達する。
5. 省察と発展志向性：自身とメンバーの学習状況を省察し、改善・発展のための方策を具体的かつ建設的に提示する。

【共創プロジェクト】（3年次）

1. 情報収集・提供：課題解決に必要な情報を精選して収集し、効果的に利用できる形態で提供する。
2. 課題構想力：既存の学知を組み合わせながら、課題を分析し、創造的かつ実現可能な解決策を探求する。
3. 情報発信力：他者への効果的伝達を企図して、レポートやプレゼンテーションを論理的かつ印象的に構成し、発信できる。
4. 協働実践力：チームが最大のパフォーマンスを発揮できるよう、状況に応じて自他の役割を判断し、適宜、相互にフィードバックを与えながら、チームの目標達成に貢献する。

共創基礎プロジェクト（2年次）

| 週 | テーマ | 内 容 |
|---|----------|-----------------------------|
| 1 | ガイダンス | 授業の概要 グループワーク：取り上げる課題の選定 |
| 2 | グループワーク | グループ討論 “望ましいグループワーク” |
| 3 | 調査方法・1 | グループワーク：調査方法の検討 |
| 4 | 調査方法・2 | グループワーク：調査結果の共有と吟味 |
| 5 | 批判的思考 | グループワーク：これまでの調査結果の再吟味 |
| 6 | 成果のとりまとめ | グループワーク：プレゼンテーション準備 |
| 7 | 成果報告 | グループ・プレゼンテーションとピアレビュー |
| 8 | ふりかえりと講評 | グループワーク：最終報告書のとりまとめ |

4クラスに分け各クラス1人の教員が担当し、共通プログラムを用いて協働学習の基本的スキルを学ぶ（グループワーク、調査方法、批判的思考など）

※2022春学期、火3・4時限の実施例

共創プロジェクト（3年次）

2022春学期

| | |
|---|--|
| 1 | 「数理モデルの作り方」（月3、T. & F.） |
| 2 | 「多文化共生、メディア、マイノリティ」（水2、N. & M.） |
| 3 | 「食料生産を考える～なすび農家になってみよう」（木3、M. & I.） |
| 4 | 「縄文・弥生時代を共創的に考える～稲作始めますか？」（金1、T. & Y.） |

夏学期

| | |
|---|---------------------------------|
| 1 | 「政治と言語」（火3、O. & U.） |
| 2 | 「メンタル・ヘルスの科学的探究と対策」（火4、I. & A.） |
| 3 | 「模擬国連：パレスチナ和平問題」（金1、Y. & T.） |
| 4 | 「共創の場でのコミュニケーション」（金2、L. & M.） |

秋学期

| | |
|---|----------------------------------|
| 1 | 「戦間期日本の社会」（火2、K. & S.） |
| 2 | 「情報・科学と世界①」（火5、S. & K.） |
| 3 | 「公共のものをいかに管理するか」（水2、K. & F.） |
| 4 | 「メンタル・ヘルスの経験を質的研究する」（木2、A. & I.） |

冬学期

| | |
|---|---|
| 1 | 「考古学×数理モデル」（月3、T. & F.） |
| 2 | 「グローバル化のもたらす問題点をいかに改善するか」（火2、S. & K.） |
| 3 | 「情報・科学と世界②」（火3、S. & K.） |
| 4 | 「自然共生社会の構築に向けた糸島～福岡モデル事業のマスタープラン作成」（水2、F. & K.） |

※クラス選択希望調査に基づいてクラス配属を行う

卒業生アンケート(2021年12月～2022年2月)：

カリキュラムポリシーに挙げる7つの能力のうち、「能動的学習能力」、「課題構想力」、「協働実践力」の3つの能力において、「共創プロジェクト」が各種能力の獲得に有効な授業であったと過半数以上の学生が回答している。

DP(ディグリー・プロジェクト)の学び方

• ディグリー・プロジェクト

共創的課題解決力を養うための集大成となる卒業研究

自分が設定した課題に対して、2つの方法を組み合わせて課題解決に挑む

DP1 (3年次冬)、DP2 (4年次通年)、DP3 (成果発表プレゼン)

※課題解決を狭く捉えると、解決できる課題しか取り上げられない

→解決策は出せなくとも、課題について多元的な視点から深く究明することを評価する

• レイト・スペシャリゼーションとDPの完成度の兼ね合い

<科目としてのDPは3年時冬学期から始まるが、そのときになって取り組み始めるのでは、研究がスムーズに進まない→スケジュールの工夫>

• DPのスケジュール

2年末：指導教員探し (面談)

3年春：主指導教員決定 ※主指導教員は事前指導を開始することもある

3年夏：副指導教員決定

3年冬：DP1 ※主指導教員は基本的に週1ペースで指導

4年春：DP2 スタート (通年) ※同上

前期終了時：中間発表会

4年1月：成果物提出

4年2月：成果物発表会 (DP3)

DP(ディグリー・プロジェクト)の事例

Aさん：高校時代、文系クラス

基盤エリア：地球・環境

「ヘラサギ類の今津干潟と周辺環境の利用状況から見る将来の水鳥保全と環境利用の展望」

→大学院（環境科学専攻）進学

Bさん：高校時代 文系クラス

基盤エリア：人と社会

「国産コーヒーの6次産業化に向けて-徳之島の事例-」

→民間企業（金融機関）就職

Cさん：高校時代 理系クラス

基盤エリア：国家と地域

「中国におけるインフラ投資が中国内陸部における日本企業の直接投資に与える影響 ～一帯一路政策におけるインフラ投資に着目して～」

→大学院（経済システム専攻）進学

※**基盤エリア**とは設置時のカリキュラムで設定された、自分が主として学ぶ課題領域のこと。

「人間・生命」「人と社会」「国家と地域」「地球・環境」の4つ。

3. 志願状況、教育の成果と課題

～学修成果の可視化という観点から～

志願者数の推移

- 九州大学の学部の中では倍率は比較的高い方

- 総合型は、初年度は例外的に高倍率、年を経るにつれ落ち着いてきている

- 学校推薦型は微増傾向

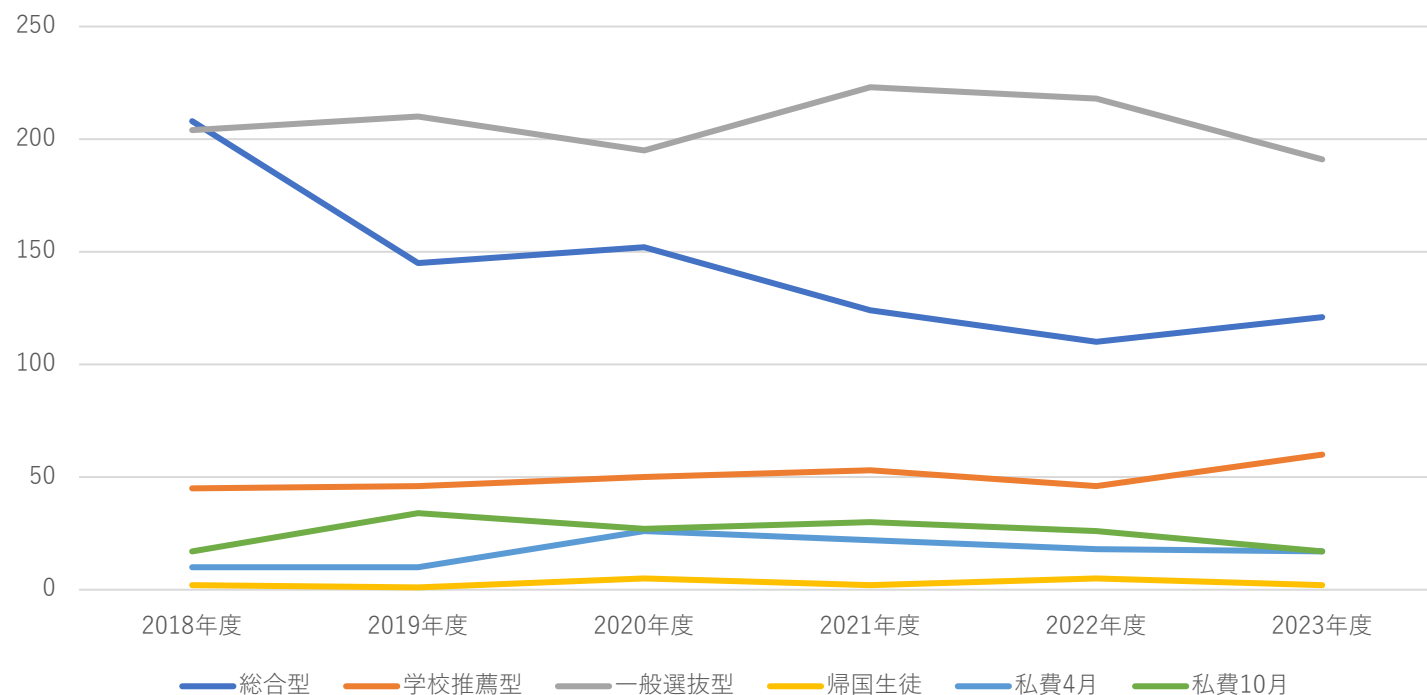
- 一般選抜は安定しているが、この数年だけをみれば微減。コロナに伴う安全志向の影響か

- 私費留学生は、コロナの影響もあり、伸び悩んでいる

- 特に私費10月入学は辞退者が少ない。国際プロモーションをどうするかが課題

| 志願者数 | 総合型(20) | 推薦型(10) | 一般選抜(65) | 帰国生徒 | 私費4月 | 私費10月 |
|--------|---------|---------|----------|------|------|-------|
| 2018年度 | 208 | 45 | 204 | 2 | 10 | 17 |
| 2019年度 | 145 | 46 | 210 | 1 | 10 | 34 |
| 2020年度 | 152 | 50 | 195 | 5 | 26 | 27 |
| 2021年度 | 124 | 53 | 223 | 2 | 22 | 30 |
| 2022年度 | 110 | 46 | 218 | 5 | 18 | 26 |
| 2023年度 | 121 | 60 | 191 | 2 | 17 | 17 |

各入試枠の志願者数の推移



志願者の出身地

※2018年度入試から2022年度入試まで、延べの志願者数
(共創学部パンフレット2023から抜粋)

- ・地元の福岡、九州地区からの志願者が極めて多い
- ・九州大学の学部の中では、九州大学以外からの志願者数が多い方である
- ・留学生の出身国は中国と韓国が多く、アメリカとインドネシアがそれに続く

これまでの志願状況

| | | | |
|---------|----|---------|---|
| 中国 | 80 | インド | 3 |
| アメリカ | 39 | グアテマラ | 1 |
| 韓国 | 64 | ペルー | 1 |
| インドネシア | 26 | ベトナム | 2 |
| 台湾 | 8 | アルゼンチン | 1 |
| マレーシア | 6 | ネパール | 1 |
| モンゴル | 2 | ロシア | 1 |
| オーストラリア | 3 | ブラジル | 2 |
| ドイツ | 1 | ブルガリア | 1 |
| シンガポール | 5 | オランダ | 1 |
| タイ | 8 | バングラデシュ | 1 |
| トルコ | 1 | カナダ | 1 |
| フィリピン | 6 | | |



※詳しい入試情報は、入学者選抜概要や募集要項をご覧ください。



学部教育のコンセプトと成果の可視化

- **学修成果(learning outcomes)**

「プログラムやコースなど、一定の学習期間終了時に、学習者が知り、理解し、行い、実演できることを期待される内容を明言したもの」（学士課程答申、2008）

- **共創学部のコンセプト**（『学生の手引』からの要約）

「本学部は、人類が直面している様々な問題に対して、多様な背景を持った人々と協働しながら、地道にあきらめることなく、その解決を模索していくことができる人材を養成することを目的としています。答えのない課題に取り組むために、

- 課題が解決したありうべき未来を想像し、そこに至る道筋を「構想」すること、
- 一人だけでは十分な解決策を考え出すことはできないので、他者と「協働」すること、
- 課題解決のためにさまざまな人とコミュニケーションし、「経験」を積んでいくこと

が重要です。共創学部が掲げる「共創」とは、「構想」「協働」「経験」というプロセスを繰り返すことで、「課題に応じ自ら必要なことを学ぶ態度や志向性」を養い、「必要となる知識を組み合わせた知」を創造し、それを「実社会の中で」活用していくことを意味します。共創学部が提供するカリキュラムは、①「課題に応じ自ら必要なことを学ぶ態度や志向性」、②「課題解決を目指して他者と協働する技法」、③「多様な学知を組み合わせる課題の検討・解決に資する新たな知を生み出す方法論」を修得し、最終的に④「共創的課題解決力」という専門性を身につけることを目標とします。」

- この力をどのように可視化するのか？

教育の成果の可視化～ディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシー

- A-1. **(主体的な学び)** 豊かな学識と教養を土台に、自ら進んで課題や問題を創造的・批判的に吟味・検討することができる。
- A-2. **(協働)** 背景や専門の異なる様々な人々と知の交流をおこない、他者と協働して課題や問題に取り組むことができる。
- B-1. **(知識・理解)** 課題の検討と解決に必要な学問的方法論や概念などについて十分な知識を有し、その知識と課題の関連性について説明することができる。
- B-2. **(情報リテラシー)** 数理やデータサイエンスなどに関する知識を有し、様々な情報を分析・活用することができる。
- C-1-1. **(国際コミュニケーション力)** 背景の異なる様々な人々と、言語や専門の垣根を超えて協力し、理解し合うことができる。
- C-1-2. **(能動的学習能力)** 課題の検討と解決に必要な知識や能力を主体的に探究することができる。
- C-2-1. **(課題検討力)** 既存の学知を活用し、課題の根源的原因やその解決方法を検討することができる。
- C-2-2. **(創造的構想力)** ありうべき未来を想像し、新しい社会的価値やイノベーション創出を通じてそこに至る道筋を構想できる。
- C-2-3. **(協働実践力)** 背景の異なる様々な人々との議論や協働を通じて、実現可能な課題の解決方策を立案することができる。
- D. **(共創的課題解決力)** 「国際コミュニケーション力」、「能動的学習能力」、「課題検討力」、「創造的構想力」、「協働実践力」の5つの力を総合して、課題の解決に取り組むことができる。

教育の成果の可視化～アセスメント・プラン

次の主要科目の成績を見ることで、プログラムとして養う力を身につけているかどうか確認する

- C-1-1. **(国際コミュニケーション力)** 背景の異なる様々な人々と、言語や専門の垣根を超えて協力し、理解し合うことができる。
 - 入門：インテンシブ・イングリッシュ（基幹教育）
 - 応用：経験科目（海外留学等）
- C-1-2. **(能動的学習能力)** 課題の検討と解決に必要な知識や能力を主体的に探究することができる。
 - 基礎：協働科目
 - 応用：ディグリー・プロジェクト
- C-2-1. **(課題検討力)** 既存の学知を活用し、課題の根源的原因やその解決方法を検討することができる。
 - 基礎：アプローチ科目
 - 応用：課題科目
- C-2-2. **(創造的構想力)** ありうべき未来を想像し、新しい社会的価値やイノベーション創出を通じてそこに至る道筋を構想できる。
 - 応用：ディグリー・プロジェクト
- C-2-3. **(協働実践力)** 背景の異なる様々な人々との議論や協働を通じて、実現可能な課題の解決方策を立案することができる。
 - 基礎：協働科目（共創基礎プロジェクト）
 - 応用：協働科目（共創プロジェクト）

卒業生アンケート

1. 評価を受けた点

- 履修指導のあり方、クラスの規模などは概ね好評
- 授業のわかりやすさ、学生の自主学習の配慮、グループワーク、英語教育などについても肯定的

2. 指摘されている課題

- 授業の開講分野における偏り
 - 教員編成のルール改正により徐々に対応
- 各分野の専門性の体系的な学びの不充分さ
 - カリキュラム改革で対応
- 専攻教育の満足度が他学部に比べ相対的に低い
 - 文理融合系にみられる傾向か？ → 講演の最後で考える

卒業生の進路



2021年度卒業生 (2022年3月卒業者) **73名**

就職 49名
63.6%

- 製造・建設：大成建設、パナソニックコネクト、オリエンタル・モーター、久原本家、モンペル
- 小売・流通・商社：ニトリ、ニトリホールディングス、イオン九州、新出光、ジーユー
- 金融：福岡銀行(6)、三井住友銀行、楽天銀行、日本生命保険相互会社、第一生命保険、三井住友海上火災保険、三井住友ファイナンス&リース、
- サービス：楽天グループ、コムテック、INCLUSIVE、カクシン、マッキンゼーエリクソン、アクセンチュア、ペネッセコーポレーション、アイオ、ジェイウエイブ、大和ライフネクスト、AlphaSights
- インフラ：九州電力、中部電力
- 情報・通信：NTTデータ九州、NTTドコモ、西日本電信電話、PR TIMES、TIS、オービック
- マスコミ・出版・広告：新学社
- 公益団体：福岡商工会議所
- 官公庁等：国立研究開発法人 科学技術振興機構、国立大学法人 九州大学、(独)労働者健康安全機構、海上自衛隊、宮崎県

進学 24名
31.2%

- 九州大学
人文科学府、地球社会統合科学府(6)、人間環境科学府(4)、経済学府、生物資源環境科学府、システム情報科学府(研究生)、統合新領域学府、芸術工学府(2)、総合理工学府(2)、システム生命科学府
- 北海道大学 環境科学院(2)
- 京都大学 アジア・アフリカ地域研究研究科
- 東京大学 総合文化研究科(広域システム科学系)
- 専門学校：澁上医療専門学校

その他
4名
5.2%

2022年度卒業生 (2022年9月/2023年3月卒業者) **84名**

就職 62名
70.5%

- 製造・建設：BEMAC、GSユアサ、UCC上島珈琲、アイリスオーヤマ、スガツネ工業、パナソニックハウジングソリューションズ、フルタイムシステム
- 小売・流通・商社：アマゾンジャパン合同会社、キントー、シナネンホールディングス、良品計画
- 金融：十八親和銀行、住友生命保険相互会社、野村総合研究所、福岡中央銀行、宮崎銀行、明治安田生命保険相互会社、楽天証券
- サービス：Asobica、Mobility Technologies(GO)、ウィル(2)、カチタス、グッドルーム、アイレップ、アクセンチュア、アビームコンサルティング、イグニション・ポイント、エムティーアイ、クリークアンドリバー、セプテーニホールディングス、パーソルプロセス&テクノロジー、ブリーチ、ブルームバーグ、ベストコ、星野リゾート、マクロジ、三菱地所、ムーディーズ、ゆめみ、楽天グループ、リンクアンドモチベーション
- インフラ：日本航空(2)
- 情報・通信：LINE、Works Human Intelligence、応研、西日本電信電話、日本IBM(2)、富士通Japan、富士通
- マスコミ・出版・広告：JR九州エージェンシー、KBC九州朝日放送、進研アド、博報堂プロダクツ
- 官公庁等：経済産業省、佐賀地方法務局、山口県

進学 22名
25.0%

- 九州大学
地球社会統合科学府(5)、人間環境学府(3)、生物資源環境科学府(2)、芸術工学府、システム生命科学府
- 北海道大学 文学研究院(文化人類学)、経済学院(会計情報専攻)
- 東京大学 新領域創成科学研究科、大学院学際情報学府
- 東京工業大学 環境・社会理工学院(融合理工学系)
- 京都大学 医学研究科、人間・環境学研究科(2)、生物資源経済学

その他
4名
4.5%

卒業生の進路（就職）

- ・学生としては「先輩のいない就職活動」、採用側にとっては「実績のない学部」という状況下で、比較的良好な就職状況と思われる

- ・主要な8業界（製造・建設、小売・流通・商社、金融、サービス、インフラ、情報・通信、出版・マスコミ、官公庁*）のすべてに就職者を輩出できたのは、学生が自らの関心にそって主体的に学んでいくことのできるカリキュラムの成果の一つだと考える。

[*マイナビの主要8業界を、共創学部の動向にそって若干修正した。]

- ・上記の8業界中ではサービス業が最も多く、比較的新しい企業が多い（R3年度は10社中4社、R4年度は23社中9社が2000年以降の創業である）。これらの企業の多くはデジタル・テクノロジーを用いて、日本社会の課題の解決（新たな価値創造、人材育成等）に取り組んでいる。このような就職先の傾向は、共創学部で身につけた課題解決の意識、特に日本社会の課題解決に取り組みたいという学生の意識の結果と考えられる。

卒業生の進路（進学）

- ・ 2年合計の進学率は27%である。日本の大学院進学率は2010年（女子7.1%、男子17.4%）以降、低下傾向にあり、また女子の進学率が低いことを考えると、女子が半数を占める学部としては比較的高い数値といえる。

- ・ 進学先としては文系・理系・学際系の多様な大学院に進学しているが、最も多いのは学際系大学院、特に環境や情報に関わる専攻に進学する者が多い。これらの領域における課題解決のためには、専門性を高めるとともに、社会のあり方をも考える必要があり、共創学部の学びと適格的である。

共創学部での幅広い学びは、進学先専攻の多様性と、とくに文理融合系大学院への進学という特徴になって現れていると考えられる。

- ・ 集計した時点（23年3月まで）でのデータでは、国外の大学院への進学者はいなかった。これはコロナによる影響があったものと思われる。その後、海外の大学院へ進学するものが2名いることを補足しておく。

卒業生の活躍 新聞報道から

大学の昆虫標本、あなたもオーナー 寄付返礼品、デジタルデータをNFT化 「総本山」九州大の院生発案

「学術的に貴重な標本の維持費用をどうまかなうか。その難題の解決に、昆虫学の総本山、九州大の学生たちが「NFT（非代替性トークン）」と呼ばれるデジタル技術で挑んでいる。保管庫に眠る国内最多の昆虫標本から収益を生み出し、世の中を変えていくという壮大な夢を描いている。

100年以上の昆虫研究の歴史がある九大は、400万点以上の標本を所蔵。種の基準となる貴重な「タイプ標本」も3500点以上と国内最多だ。ただし劣化を防ぐため温度や湿度を保つ必要があり、光熱費や資材費、人件費などが年1千万円ほどかかるという。

この問題に関心があった大学院生の浅見昂志（こうし）さん（23）が目をつけたのが、「NFT」だった。暗号資産にも使われるブロックチェーン（分散型台帳）の技術で、データの偽装や改ざんを防ぐ鑑定書として使われる。見た目はふつうのデジタルデータだが、「本物」と証明され、所有者の履歴も記録される。

普段は害虫防除を研究している浅見さんは、賛同する学生と5人で「Bug Chain（バグチェーン）」というグループを結成。昆虫標本を管理するチョウの専門家、小川浩太助教（37）と一緒に今春から活動を始めた。

最初にNFTにする標本として、チョウやクワガタムシなど人気の昆虫を中心に50点を選んだ。マニア心をくすぐれるよう、例えばキュウシュウヒメオオクワガタのデジタルデータには、画面上で好きな向きから拡大して観察できる「精密3Dモデル」を採用。ほかに「顕微鏡レベルまで拡大できる超高精細画像」なども用意した。」

*九州大学が保有する昆虫標本—小川浩太助教による



（朝日新聞2023年11月11日）

文理融合教育における学生の成長のために

- 「やりたいことを決められない」ための文理融合系学部の選択は要注意
 - 「なんでもできる」は「なにをしていいかわからない」に通じやすい
- 共創学部の基幹教育（≡初年次教育）の満足度は他学部比べて高いが、専攻教育科目の満足度は他学部比べて低い傾向が出ている
 - 不満の理由の精査が必要だが、想像できることは「学ぶ意味」の感じられ方。
 - 共創学部は基幹教育から専攻教育のつながりが強いので、基幹教育を学ぶ意味が他学部より理解しやすい。一方、専攻教育科目における多様な専門科目の間の関係の意味を理解することは容易ではない。「なにをしていいかわからない」学生にとってはなおさらのこと
- 文理融合をブームに終わらせないためには、学生が文理を越えて幅広く学ぶことの積極的意義（専門分野間の関係の意味）を理解する機会を増やすことが必須

ご清聴ありがとうございました。